

医療通訳養成講座 2026年度シラバス

科目名	多文化共生基礎
開講期 時間	秋期間(9月～12月) 土曜日2限(14:00-15:30)
担当教員	鈴木 江理子 近藤 敦 俵 公二郎 李 節子 中村 安秀 村松 紀子 後藤 美樹 松浦 由佳子 木下 貴雄 島村 暁代 小島 祥美
授業形態	オンライン(ZOOM)

授業の目標

日本社会の多言語・多文化化の進行状況と、そこで発生する諸課題、その解決に向けてのさまざまな取り組みを知るとともに、困難な状況にある人々への共感的理解を深めることを目標とします。

授業の概要

グローバル化の加速により、日本社会の多言語・多文化化が進行するなか、ホスト社会と在住外国人のあいだでさまざまな問題が顕在化してくるようになり、全国各地で多文化共生の推進が急務となっています。本授業では、在住外国人をとりまく動向や歴史的経緯、政策や制度などに関する基礎知識を身につけるほか、さまざまな課題に最前線で取り組む方々を迎え、リレー形式で「多文化共生のいま」をテーマに講義を行います。

授業計画

1	授業計画	ガイダンス／子どもと就学 講座の趣旨説明、各回の講師の紹介を行いつつ、日本社会の多言語多文化化の状況と課題について、意見交換しながら理解を深めます。後半は、外国籍の子どもの就学課題について、具体的事例から学びます。 講師：小島祥美 東京外国語大学／多言語多文化共生センター長
	事前学習	シラバスを確認する。
	事後学習	ガイダンスの内容を踏まえ、本授業が扱うテーマを把握する。
2	授業計画	人口減少と外国人政策 人口減少・労働力不足を背景に、移民／外国人受入れへの関心が高まっています。2023年に社人研が公表した将来推計人口(出生中位・死亡中位)によれば、2070年の外国人人口比率は1割強に達します。移民／外国人は「補充」の手段ではないということを大前提として、本講義では、人口政策の視点から、移民／外国人政策を考えてみたいと思います。 講師：鈴木江理子 国士舘大学文学部教授
	事前学習	あなたが暮らしている自治体の人口推移(日本人と外国人)について、自治体HPなどで調べてみてください。
	事後学習	あなたが暮らしている自治体の人口に関する取り組みを、主に外国人に着目して調べてみてください。

3	授業計画	外国人の人権と多文化共生施策 最初に、外国人の人権の発展を概観する。ついで、統合政策としての多文化共生について、多文化主義やインターカルチャリズムとの比較を行う。そのうえで、①文化の選択の自由(多様性の尊重)、②平等の確保、③共生(積極的な市民参加と有意義な交流の促進)といった、多文化共生の理念と現状の課題について検討する。最後に、まとめとして、具体的な多文化共生推進プランや人権条例などをもとにポイントを振り返る。 講師:近藤 敦 名城大学法学部教授
	事前学習	『多文化共生と人権』などの基本書を読んでおくことが望ましい。
	事後学習	『移民の人権』などの基本書を読むことが望ましい。
4	授業計画	弁護士から見える問題 コロナ禍以降での外国人の在留資格上の問題について学びます。特に、近年の政府の方針が大きく変化するなかで外国人が直面する課題について、通訳者として知っていただきたいことを中心に、具体的事例をもとに学びます。 講師:俵 公二郎 弁護士(東京弁護士会所属)
	事前学習	外国人の出入国に関連するニュースをチェックしておく。
	事後学習	講義内容を踏まえて、外国人の在留資格にかかわる問題について更に調べる。
5	授業計画	日本社会で働くさまざまな外国人 2025年10月末現在の外国人労働者数は約257.1万人(外国人雇用状況の届出状況)と、過去最高を記録しました。そのうち、政府が積極的な受入れを目指す専門的・技術的労働者は3割強です。では、それ以外の外国人は、どのような資格で、どのような職種で働いているのでしょうか。本講義では、日本で働くさまざまな外国人について考えてみたいと思います。 講師:鈴木江理子 国士舘大学文学部教授
	事前学習	どのような外国人労働者が日本社会で働いているのかについて、日常生活での出会い、新聞等メディア報道等を通して考えてみてください。
	事後学習	講義内で取り上げた様々な外国人労働者のなかで、あなたが関心をもった外国人について、メディア報道や書籍などでさらに詳しく調べてみてください。

6	授業計画	在住外国人のリプロダクティブ・ヘルス/ライツ その① まず、グローバル化の現状と世界市民のあり方について学びます。 すべての人が有する「健康権／人権」について学びます。 「誰一人取り残さない」視点からその健康支援のあり方を模索します。 講師:李 節子 長崎県立大学名誉教授
	事前学習	SDGSの内容を理解しておく。
	事後学習	人類の健康課題を解決するためには、どのような国際協力が必要となるか自分なりに探索する。
7	授業計画	在住外国人のリプロダクティブ・ヘルス/ライツ その② 「誰一人取り残さない」視点から、在日外国人の母子保健、健康支援のあり方を学びます。命と健康を守るための、通訳の重要性について模索します。 講師:李 節子 長崎県立大学名誉教授
	事前学習	日本に移住した女性(外国人技能実習生等)の妊娠に関するニュースを見て、どのような健康問題があるか調べる。
	事後学習	講義内容を踏まえて、自治体が行っている在日外国人の母子保健支援内容について具体的に調べる。
8	授業計画	在住外国人の医療通訳 医療は文化です。この講義では、在住外国人が医療機関を受診するときや健康診断をうけるときの、ことばや文化の壁の大きさについて学びます。それを克服する試みとして、ホームページではすでにさまざまな情報提供が行われています。世界各国において、医療者と移民のコミュニケーションを支援する医療通訳士が活躍しています。日本においても、2020年に医療通訳士という資格が学会認定されました。その仕組みと課題について考えてみたいと思います。 講師:中村 安秀 大阪大学名誉教授／公益社団法人日本WHO協会 理事長
	事前学習	ホームページやアプリで、多言語による保健医療情報や病院案内がどのように提供されているのか調べてください。とくに、得意な外国語がある場合は、特定の言語だけで(日本語を介することなく)多言語情報にアクセスできるのかという視点でチェックしてください。
	事後学習	講義内容を踏まえて、自分の関心のある外国にルーツを持つ集団の保健医療にかかわる文化や宗教の課題についてより深く調べてください。

9	授業計画	医療通訳者の活動から 様々な医療保障が提供されているにもかかわらず、日本語ができないことで、医療にアクセスできない人たちがいます。たとえ受診ができて、自分の症状を正しく伝えたり、自分の病状を理解したり、自分のして欲しい治療方針を伝えることが難しい人たちがいます。医療通訳は、日本語ができない患者であったとしても、きちんと医療を受ける権利を行使することができるように提供されるべき社会資源です。これは、外国人だけでなく、手話を言語とする人たちも同じです。医療通訳とは何か。他の通訳と何が違うのか。皆さんと一緒に考えたいと思います。 講師:村松紀子 医療通訳研究会(MEDINT)代表
	事前学習	皆さんが住んでいる地域に、医療通訳制度はありますか？周りの言葉のできない外国人の人たちは病気になった時、どうしていますか。調べてみてください。
	事後学習	講義内容を踏まえて、医療通訳のあるべき姿を考えて下さい。
10	授業計画	外国人とDV この講義では、外国人女性のDV被害の実態、被害を生み出す社会構造、被害者支援制度について説明します。受講者には、DV被害についての理解を深めてもらい、通訳者として関わる際に最低限必要な知識を身につけてもらいます。 講師:後藤美樹 NPO法人外国人ヘルプライン東海代表
	事前学習	DVや児童虐待など家庭内暴力の背景にあるものは何か、ネットで調べたり、ニュースを読んで考えをまとめておいてください。外国人に限らなくても良いです。
	事後学習	講義を踏まえて、DV案件を通訳する場合、必要な下調べや、その他気をつけるべき点について考察を深めてください。
11	授業計画	日本における難民問題 故郷を追われ、強制移動を強いられた難民、国内避難民の数は世界で1億2000万人となっています。日本における難民申請は3年連続で1万人を超え、2025年は11,298人となりました。難民認定数は187人(前年比3人減)と4年連続で100人を超えたものの、厳格な審査基準が保たれ、低い認定率が続いています。難民受け入れの現状と課題を知り、多様な背景を持つ人々の人権と尊厳を守り、難民を保護できる社会のあり方を考えます。 講師:松浦 由佳子 NPO法人アルペなんみんセンター定住支援コーディネーター
	事前学習	世界の難民に関するニュース、日本に逃れてきた難民・難民申請者(仮放免者含む)についてのニュースをチェックしておく。余裕があれば参考書籍(『ボーダー 移民と難民』、『隣人のあなた〜「移民社会」日本でいま起きていること』、『難民の?(ハテナ)がわかる本』他)を読んでおく。
	事後学習	日本における難民受け入れの問題を改善するために、できることを考え、仲間を見つけ、行動していく。

12	授業計画	高齢化する在住外国人 この講義では、在住外国人の高齢化問題について概観する。どのような異文化背景を持つ人が高齢期を迎えたのか、迎えようとしているのか、どんな問題が生じているのか、どのような取り組みがあったのか等々。多文化共生社会の先にある外国人高齢化という現実、多文化高齢社会・多文化介護時代の到来に備えるために、何をどうすべきかについて考える。 講師：木下 貴雄 外国人高齢者と介護の橋渡しプロジェクト 代表
	事前学習	ネットから、在住外国人の高齢化問題に関する資料や映像を調べて、予備知識として学んでおく。
	事後学習	自分が住んでいる市町村に在住外国人の高齢人口がどのぐらいいるのか、公的支援の仕組みがあるのかどうかについて調べて、自分たちにできることは何かについて考える。
13	授業計画	外国人と社会保障法 この講義では外国人が年金や医療保険、生活保護等のさまざまな社会保障制度の中でどのように位置づけられているか、どのような権利が保障されているのか等を学びます。 講師：島村暁代 立教大学法学部教授
	事前学習	外国人の社会保障に関連するニュースをチェックしておく。
	事後学習	講義内容を踏まえて、外国人の社会保障にかかわる問題について更に調べる。
14	授業計画	日本社会の多言語・多文化化と私たち 本講座で学んだことを踏まえながら、多言語・多文化化が進む日本社会の課題と可能性について、参加者全員で意見交換を行います。 講師：小島祥美 東京外国語大学教授／多言語多文化共生センター長
	事前学習	これまでの授業の内容を再確認しておく。
	事後学習	各自の関心に応じて、さらに問題を掘り下げて調べ、考える。
15	授業計画	病院実習 ※東京科学大学湯島キャンパスで病院実習を実施します。
	事前学習	これまでの授業の内容を再確認しておく。
	事後学習	各自の関心に応じて、さらに問題を掘り下げて調べ、考える。

成績評価の方法・基準

コメントシート(40%)、積極的な授業参加(30%)、期末レポート(30%)を総合して行います。各項目の詳細は以下の通りです。

・コメントシート：毎回の講義終了後に提出を求めます。提出期限は「授業実施日の翌週金曜日23:59」とします。

・積極的な授業参加：出席状況などを基に総合的に評価・算出します。

・期末レポート：全15回の講義内容を踏まえた集大成として課します。

履修上の注意

特になし

教科書

特になし

参考書

田中宏『在日外国人 第三版——法の壁,心の溝』岩波新書 2013年

近藤敦『多文化共生と人権—諸外国の「移民」と日本の「外国人」』明石書店 2019年

近藤敦『移民の人権——外国人から市民へ』明石書店 2021年

宮島喬・鈴木江理子『新版 外国人労働者受け入れを問う』岩波ブックレット 2019年

鈴木江理子「人口政策としての外国人政策」『なぜ今、移民問題か』藤原書店 2014年

鈴木江理子「移民／外国時抜け入れをめぐる自治体のジレンマ」『開かれてた移民社会へ』藤原書店 2019年

李節子編著「在日外国人の健康支援と医療通訳 誰一人取り残さないために」杏林書院 2018年

中荻エルザ『医療通訳者の仕事』風詠社2024年

高橋弘枝監修『実践! 外国人妊産婦対応マニュアル』メディカ出版 2021年

保健の科学特集『医療通訳士に期待する—安心・安全な外国人医療をめざして』2020年9月号

中村安秀・南谷かおり編著『医療通訳士という仕事』大阪大学出版会 2013年

小島祥美編著『Q&Aでわかる外国につながる子どもの就学支援——「できること」から始める実践ガイド』明石書店 2021年